

一般社団法人おおさき青年会議所

2026 年度理事長所信

理事長 吉田俊弥

【はじめに】

1963 年の創立以来、おおさき青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」という普遍の理念のもと、63 年にわたり地域の課題と真摯に向き合い、未来を見据えた運動を展開してきました。その礎を築かれた先輩諸兄姉の揺るぎない情熱と行動力、そして地域への深い愛情に、改めて敬意と感謝の意を表します。

今ある便利で豊かな暮らし、守られてきた原風景、そして地域のあたたかなつながりは、すべて何かを変えたい、地域のために力になりたいと願い、行動を起こしてきた先人たちの積み重ねの上に成り立っています。その意思是脈々と私たち青年へと受け継がれ、今まさに、私たちがそのバトンを握る世代となりました。

時代は大きく変化し、社会はより複雑さと多様性を増しています。しかし、どんな時代であっても、地域を思い率先して行動を起こす青年の存在は変わらず重要であり続けます。なぜなら、未来を創るのは今を生きる私たち自身だからです。

だからこそ、私たちはこの地域の未来を傍観するのではなく、自らの手で切り開いていきます。変えるのは他の誰でもない、私たち青年です。私たちが立ち上がり、行動を起こし、地域の可能性を引き出していく。その強い覚悟と情熱を持って、本年もおおさき青年会議所は運動を展開していきます。

【時代を見据えた組織運営】

青年会議所は、志ある青年が集い、地域社会の課題に真正面から向き合いながら、議論を重ねて行動へとつなげていく組織です。その活動の根幹には会議があり、方針や事業の決定だけでなく、組織としての意思を共有し、会員一人ひとりの志をひとつにする重要な場となっています。

こうした会議が本来の役割を果たすためには、規則に則った基本に忠実な運営が不可欠です。正確かつ厳粛に設営・運営された総会、理事会、例会といった公式の場においてこそ、活発で建設的な議論が生まれ、組織としての健全な成長が促されます。会議体の一つひとつが誠実に運営されることで、組織全体に信頼と一体感が育まれ、私たちの運動の力強い推進力となっていきます。

また、変化の激しい時代においては、諸会議の運営にも進化が求められます。近年急速に発展している生成 AI をはじめとした先進的なデジタルツールは、会議や運営の効

率化、情報共有の質的向上に大きな可能性をもたらします。おおさき青年会議所では、これまでも有益なツールを積極的に導入してまいりましたが、今後はさらに一步進んだ活用を目指し、時代に即した柔軟かつ確かな運営体制の構築に取り組んでまいります。

独立自尊の精神を掲げる組織だからこそ、当たり前のことを実行し、自らの責任を果たす姿勢が求められます。こうした積み重ねが、強固な組織基盤を築き、私たちの運動をさらに力強く展開していく力となります。

【地域を牽引する人財】

私たちは日々、家庭や仕事と向き合いながらも、青年会議所の一員として地域のため、そして自己の成長のために活動を続けています。その一つひとつの取り組みは、間違いなく尊く、誇るべきものです。

しかし、私たちは JAYCEE である前に、一人の家庭人であり、一人の青年経済人でもあります。私たちの活動が真に地域から支持され、持続可能なものであるためには、まず家庭や会社の理解と協力が不可欠です。

だからこそ、私たち自身がこの青年会議所という学び舎において大いに成長し、その成果を家庭や職場に還元していくことが重要です。

では、自己の成長とは何を指すのでしょうか。事業構築やマネジメントを学び、物事を俯瞰する視点を養うこと。自らの考えを堂々と発信する力を身につけること。ビジネスに活かせる知識やスキルを実践を通じて習得することなど、成長には様々あります。

こうした力の一つひとつは、JAYCEE として、また地域を担う青年経済人として欠かせない要素です。どれか一つでも欠けていては、地域を導く真のリーダーにはなれません。だからこそ、私たちは常に学びに貪欲であるべきです。

学び続け、成長し続ける姿勢こそが、青年会議所という組織の未来を照らす原動力となります。私たちの成長なくして、この組織が輝くことはありません。私たちは自己研鑽を重ね、地域を牽引する人財へと成長していきます。

【希望ある地域の未来】

私たちの住むおおさき地域は、豊かな自然と歴史、そしてあたたかい人々に恵まれた魅力あふれるまちです。しかしながら現在、私たちの地域は少子高齢化の進行、若者の域外流出、産業の担い手不足、地域コミュニティの希薄化など、多くの課題を抱えています。

これらの課題は全国的な傾向でもありますが、だからといって「仕方ない」「誰かが何とかしてくれる」と諦めるわけにはいきません。私たちには地域の一員として、次代を担う青年として、そして行動する団体としての使命があります。

青年会議所の強みは、自ら考え、動き、仲間とともに課題に立ち向かう行動力です。行政や企業、地域団体ではカバーしきれない部分にこそ、私たちの出番があります。私たちは、異なる立場・世代・業種をつなぎ、持続可能な地域づくりの起点となるべきだと考えています。

そして地域の未来を考えるうえで欠かせないのが、地域住民一人ひとりが自らのまちの未来に関心を持ち、主体的に関わるためのきっかけを持つことです。私たちが行う一つひとつの事業、そして一人ひとりの思いと行動が、確実に未来を創ります。

どんなに小さな一歩であっても、その積み重ねがやがて大きな変化を生み出すと私たちは信じています。私たちの運動が、まちの可能性をさらに広げていく。その確信と情熱を胸に、おおさきの明るい未来を切り開いていきます。

【笑顔あふれる花火大会】

これまで古川まつりの前夜祭としても地域に親しまれてきたおおさき花火大会は、地域に笑顔と感動を届けるおおさき青年会議所の最大級の事業であり、地域の皆様のご理解とご協力、そして地域企業や行政との連携に支えられて開催されている、おおさきの夏を彩る風物詩です。

昨今、社会情勢や経済の変動、自然災害など、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく揺れ動いています。そのような中であっても、私たちは花火を打ち上げる意味と向き合い、ただ継続するのではなく、次の世代にどうつなげていくかを真剣に考え、本年度もおおさき花火大会を開催します。

私は、花火が夜空に打ち上がった瞬間に響き渡った歓声、そして、目を輝かせて喜ぶ子どもたちの姿が今でも目に焼き付いて離れません。子どもたちの無邪気な笑顔や楽しそうな様子を見たとき、心の底からもう一度、この風景を創りたいと強く思いました。

今の子どもたちが大人になり、ふるさとの夏を思い出すとき、心に浮かぶ風景が、おおさきの夜空に咲いた大輪の花火であってほしい。そして、この花火大会が、世代を超えて心に残る夏の記憶として受け継がれてほしいと、心から願っています。

私たちおおさき青年会議所は、おおさき花火大会が未来にわたり持続可能であり続けるよう、あらゆる困難に真正面から向き合い、創意工夫を重ねながら準備を進めていきます。安全安心な大会運営はもちろん、地域の皆様、企業、行政、そして何より花火を心待ちにする子どもたちの笑顔を大切に、地域の絆と協働の象徴として、より多くの感動が生まれる花火大会を実現してまいります。

【ともに成長する組織】

近年、おおさき青年会議所では会員拡大運動の成果により、組織としての活力が確実

に高まりつつあります。2026年度は、50名を超える体制でのスタートとなり、その多くを入会3年未満の新しいメンバーが占める構成となります。一方で、長年にわたり組織を支えてこられた経験豊富なメンバーが2025年度に多く卒業されました。まさに世代交代が進む転換期を迎えています。

近年では会員の在籍年数が短期化する傾向にあり、理事として組織運営に携わるメンバーも入会から数年以内というケースが増加しています。これは新たな視点や柔軟な発想がもたらされる好機である一方で、青年会議所の本質やリーダーとしての資質を、限られた時間の中で理解し体得する必要があるという課題にも直面しています。

これまで新入会員の育成やフォローアップは各委員会に委ねられてきましたが、今こそ組織全体としての明確な受け入れ体制と、段階的かつ持続的な成長支援の体制が必要です。新入会員が組織に溶け込み、その成長を加速させるためには、既存会員との積極的な交流や協働の機会が不可欠です。

経験を持つメンバーとの関わりの中で学び合いながら絆を深めることで、世代を超えた団結力が生まれます。このつながりこそが、組織の一体感を高め、より強固なチームとしての力を育む土台となります。

新入会員の多くは、青年会議所という未知のフィールドに期待と不安を抱きながらも、「自己成長を遂げたい」「新しい学びを得たい」「地域とのつながりを築きたい」といった強い意志を持って門をたたいてくれました。

その思いに応え、彼らが確実に一步を踏み出せるよう、組織として新入会員をしっかりと受け止め、学びと実践の機会を継続的に提供し、新入会員が安心して挑戦に臨める環境を整備していきます。そして、自らがおおさき青年会議所を担う一員であるという当事者意識を醸成する体制を整えていきます。

【未来へつなぐ会員拡大】

おおさき青年会議所では、会員拡大運動が着実に成果を挙げ、会員数は増加の傾向にあります。しかし、ここで会員拡大の歩みを止めることは、未来に向けた運動の継続性を絶つことにつながりかねません。今こそ、地域の未来を見据えた持続可能な拡大運動を展開し、将来の青年会議所を担う人財を着実に迎え入れていく必要があります。

青年会議所の最大の資源は人です。すべての事業の基盤は会員であり、組織の成長や地域への影響力も、そこに集う多様な価値観と情熱によって築かれていきます。新たな会員が持ち込む新しい視点や感性は、既存メンバーに新しい刺激を与え、より創造的で柔軟な組織へと進化する大きな原動力となります。

そしてその広がりや、より強い組織、より深く地域に根ざした運動へと発展していきます。青年会議所には年齢という限られた活動期間がありますが、だからこそ今という時間を、情熱をもってまちの未来のために使い切る覚悟が求められます。

私自身、限られたこの時間だからこそ、まちのために尽力し、英知と勇気を持って地域と向き合う青年経済人でありたいと強く思っています。そして、その思いを共有できる仲間をより多く迎え入れたいと考えています。

私たちは、会員拡大の意義と目的を共有し、1年を通じて会員拡大を進めていきます。

【むすびに】

私がおおさき青年会議所に入会したのは、2020年のことです。

正直なところ、それまで私は青年会議所という組織の存在について、詳しく知っていたわけではありません。

「まちや社会のために、自分に何ができるのか」そうした思いを抱きながら、入会当初はどこか半信半疑な気持ちを拭いきれずにいました。加えて、当時は新型コロナウイルスの感染拡大により、全国的に人との交流が制限され、社会全体が大きな不安に包まれていた時期でもありました。

しかし、そのような状況の中でも同世代の青年たちが真剣にまちの未来を考え、行動している姿に、私は大きな驚きと感銘を受けました。

地域のために情熱を注ぎ、困難な状況にもひるむことなく行動し続ける先輩や仲間たちの姿に触れ、「私もこの仲間と一緒に歩みたい」そのように強く心を動かされた日のことを、今でも鮮明に記憶しています。

あれから6年。

決して長いとは言えないかもしれませんが、その間に私は、数多くの学びや出会い、そしていくつもの挑戦を経験してきました。

青年会議所での日々は、もし入会していなければ決して得ることのできなかった、かけがえのない経験の連続でした。

時に迷いや不安に立ち止まることもありましたが、そんなときに私を支えてくれたのは、いつも変わらずそばにいてくれた仲間たちの存在です。

そうした仲間とともに歩んだ一つひとつの経験が、私の背中を押し、今の私をつくり上げてくれました。

そしてその歩みの根底にあったのは、私が生まれ育ったまち、おおさきへの想いです。

おおさきは、私が生まれ育った大切なふるさとです。

このまちに流れる空気、このまちで出会った人たち、そしてこのまちで育まれた想いが、今の私の土台となっています。

だからこそ、今度は私がこのまちの力になりたい。

ともに歩んできた仲間たちと、そしてこれから出会う新たな仲間たちとともに、地域の未来を創っていく。

その想いを胸に、私はこのまちの未来に責任を持ち、先頭に立って挑戦していきます。
未来を創るのは、今を動かす私たち自身です。

だからこそ、私はこの仲間とともに、そしてこのまちとともに、これからの未来へと
力強く踏み出していきます。

さあ、今こそ私たち自身が立ち上がるとき

Take a Stand -成長から挑戦へ-